

じゅ けん ばん ごう 受 検 番 号						

き にゅう
(記入してください。)

れい わ ねん ど
令和 4 年度
きゅうけんせつ き かい せ こうかんり だいに じけんてい
2 級 建設機械施工管理第二次検定
ひつ す もんだい せ こうかんり ほう
(必須問題) 施工管理法
たくいつしき し けんもんだい
択一式試験問題

つぎ ちゅうい よ はじ
次の注意をよく読んでから始めてください。

ちゅう い
〔注 意〕

- これは試験問題です。4 頁まであります。
- No. 1～No. 10 まで 10 問題があります。
必須問題ですから 10 問題すべてに解答してください。
- 解答は、別の解答用紙に記入してください。
解答用紙には、必ず受検地、氏名、受検番号を記入し受検番号の数字をマーク(ぬりつぶす)してください。
- 解答の記入方法はマークシート方式です。

き にゅうれい
記入例

問題 番号	解 答 番 号
No. 1	① ● ③ ④
No. 2	① ② ③ ●
No. 3	● ② ③ ④

① ② ③ ④のうちから、正解と思う番号
を HB または B の黒鉛筆(シャープペンシルの場合
あいは、なるべくしんの太いもの)でマーク(ぬりつ
ぶす)してください。

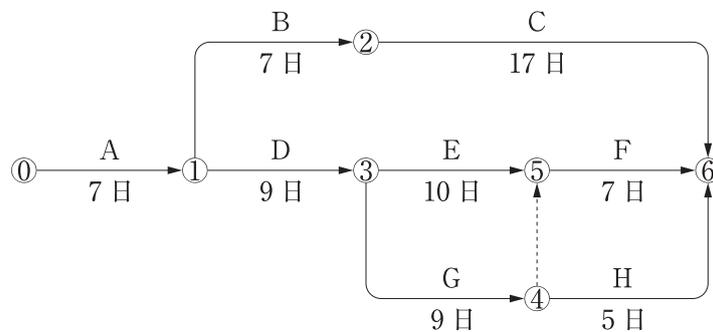
ただし、1 問題に 2 つ以上のマーク(ぬりつぶ
し)がある場合は、正解となりません。

- 解答を訂正する場合は、消しゴムできれいに消してマーク(ぬりつぶす)し直してください。

[No. 1] 建設機械施工における施工計画に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 建設機械の調達計画では、燃料補給や整備・修理等のサービス体制も確認しておく。
- (2) 作業能力の平均施工速度には、施工の段取り待ち、機械の故障および悪天候などによる損失時間が含まれる。
- (3) 建設機械を組み合わせる場合の作業能力は、組み合わせる機械のうち能力が最大のもので決まる。
- (4) 現場内の建設機械の点検整備計画を立て、建設機械の稼働率を高めることで経済的な施工を行うようにする。

[No. 2] 下図のネットワーク式工程表に示された工事の所要日数は、次のうちどれか。ただし、図中のイベント間のA～Hは作業内容、日数は作業日数を表す。



- (1) 30日
- (2) 31日
- (3) 32日
- (4) 33日

[No. 3] 工程管理に用いる工程図表に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) パーチャートは、縦軸に作業名を施工順に、横軸に作業に必要な日数を棒線で記入した図表である。
- (2) 出来高累計曲線は、縦軸に工事出来高比率をとり、横軸に工期の時間経過(日数や月数)をとった図表である。
- (3) パーチャートは、各作業間の関連および工期に影響する作業が明確である。
- (4) 出来高累計曲線は、作業の手順が不明確で、作業に必要な日数や工期に影響する作業がつかみにくい。

[No. 4] 建設機械施工における安全確保に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) のり面の締固め作業は、監視員を置き、下方で作業する者に注意しながら行う。
- (2) 積み込み作業で、重量の大きな岩石等を積み込む場合は、荷台の重心が偏らないようにする。
- (3) 掘削作業で、のり面に浮き石が出ている場合は、作業の開始前に取り除いておく。
- (4) 建設機械の使用中に事故が発生し、その原因が不明な場合は機械の使用を中止する。

[No. 5] 道路上の工事における建設工事公衆災害防止対策として、施工者が行うべき措置に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 工事中を示す標示板は、設置箇所に工事用の高い構造物がある場合はこれに取り付けることができる。
- (2) 夜間施工では、道路上に設置した柵などに沿って50 m前方から視認できる光度の保安灯を高さ1 m程度に設置する。
- (3) 交通量が多い道路では、標識や保安灯のほかに、工事中を示す標示板を設置する場合がある。
- (4) 工事を予告する標識などを設置する場合は、工事箇所の前方50～500 mの視認しやすい箇所に設置する。

[No. 6] 下記の図1～図4に示す、品質管理に用いるヒストグラムの見方に関する記述として次のうち、適切でないものはどれか。

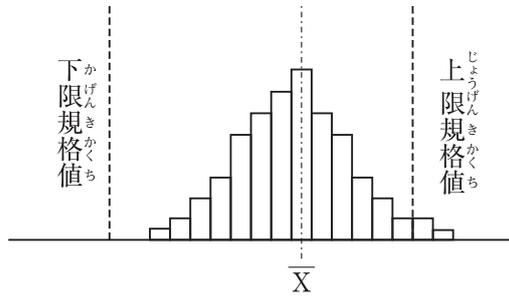


図1

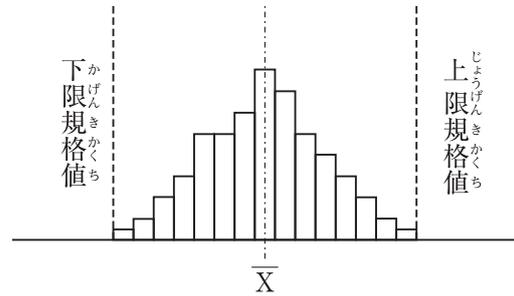


図2

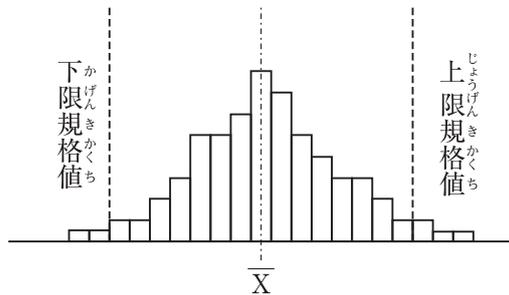


図3

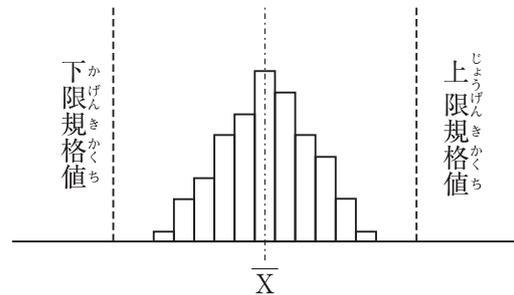


図4

- (1) 図1は、平均値が規格値内で、下限規格値との間にゆとりがあり品質に問題はない。
- (2) 図2は、ばらつきが規格の上限値と下限値に一致しており、将来、少しの変動でも規格値を割るものがあり注意を要する。
- (3) 図3は、ばらつきが、上限、下限とも規格値を外れており、ばらつきを小さくするために問題点を確認し根本的な対策が必要である。
- (4) 図4は、ばらつきもよく、規格値に対するゆとりがあり、また平均値が規格値の中央にあり良好な品質である。

[No. 7] 品質管理に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 品質特性は、工程に対して処置をとりやすい特性で、早期に結果がわかるものを選定する。
- (2) 品質特性の管理項目は、設計図書などに定められた構造物の品質に影響の少ないものから選定する。
- (3) 最終品質に重大な影響を及ぼす要因については、できるだけ詳細かつ具体的に作業標準を決めておく。
- (4) 品質標準では、設計値を満たすような品質を実現するため、ばらつきの度合いを考慮して余裕を持った品質を目標としなければならない。

[No. 8] 盛土の締固めの品質管理に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) RI計器により密度を管理する方法は、品質規定方式である。
- (2) 締固めに使用する機種や締固め回数、盛土材料の敷ならし厚さなどを規定する方法は、工法規定方式である。
- (3) TS・GNSSを用いて、締固め機械の走行記録をもとに管理する方法は、品質規定方式である。
- (4) 締固め度などを規定する方法は、品質規定方式である。

[No. 9] 建設工事における周辺地域の環境保全に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 工事に伴う騒音・振動対策は、工事实施後に地域住民から苦情が寄せられた場合に検討を行う。
- (2) 工事に関連する自動車の警報音や合図音については、必要最小限にとどめるように運転手への指導を徹底する。
- (3) 施工にあたっては、あらかじめ付近の居住者に工事概要を周知し、協力を求めるとともに、付近の居住者の意向を十分に配慮する必要がある。
- (4) 工事の作業時間は、できるだけ地域住民の生活に影響の少ない時間帯とする。

[No. 10] 「建設副産物適正処理推進要綱(国土交通省)」に基づく建設副産物に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 工法の選択や現場内での利用などにより、建設発生土の排出量や搬出量を抑制する。
- (2) 現場で利用しない建設発生土は、情報交換システムなどを活用して、他の工事現場での利用の促進に努める。
- (3) 現場内で再使用できない使用済み型枠などは、再資源化を検討する。
- (4) 元請業者は、建設廃棄物の処分を委託する産業廃棄物処分業者に、産業廃棄物の運搬契約も含めて委託できる。